



笑顔の先にある 未来へ

Hand in Hand 2008年12月23日 左)三宮会場
右)垂水会場

今年8年目を迎える兵庫県支部では、大学生を中心としたグループ『UNIES』(ユニーズ)やインターンシップで訪れた学生たちがユニセフの活動に関わっています。そこには明るい未来を感じることが出来ます。それは、小学校などで被爆体験を通して「いのち」について話をした際にも感じることで、そこでは戦争を全く知らない子どもたちの驚くほど率直な思いが伝わってきます。それは「いのちの大切さ」であり、「戦争はしてはいけない」という子どもからの願いでもあります。この子どもたちには笑顔があり、その向こうには「平和」の輝きを見ることが出来ます。



私たちは、今、過去・現在・未来と生きていく中で、起こってしまったことに對

する罪を問うだけではなく、そこから学ぶべきことは何かを問い続けることが、子どもたちの未来をつくることに繋がるのだと思っています。ユニセフの活動を通じて、世界の様々な現状を知る、そしてだれかに伝える。そんなことの小さな繰り返しの中で、人と人が繋がり、思いを分かち合う、きっとそのことが「平和」をつくる礎となっていくのであろうことを、改めて感謝する日々です。

昨年末に私の被爆の話『最後のトマト』がボランティアさんの手によって紙芝居になりました。これも、平和への思いが繋がったうれしい出来事です。



これからもみなさんと一緒に活動していきたいと思ひます。今年もよろしくお願い申し上げます。

(財)日本ユニセフ協会
兵庫県支部
会長 竹本 成徳 しげのり



世界の子どもたちのために

Wish

ユニセフ兵庫ニュース

Vol.26
(2009年新年号)

11月15日(土)、コープこうべ生活文化センターで、西村剛さんを講師に約40人が参加し、「スーダン・中央アフリカ報告会」を開催しました。毎日新聞社の「世界子ども救済キャンペーン」は、戦争や貧困に苦しむ子どもたちを救うため、「国際児童年」の1979年に「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」として始

った事業。2001年より「世界子ども救済キャンペーン」と名称を改め、毎年さまざまな取り組みを行っています。その活動も今年30年を迎え、08年度は5月末から7月にかけて毎日新聞大阪本社社会部・隅俊之記者と写真部の西村剛記者がスーダンと中央アフリカを訪れ、現地で暮らす子どもたちや人々の生活を取材。

今回は西村記者に、その現状を映像を交えてお話しいただきました。報告会の内容を参加者の感想からご紹介します。



コレラに感染し、点滴を受けるサンデー・ボニちゃん。やせ衰え、母親が手を差し伸べても泣き声さえあげられない(スーダン南部ジュバにて、西村剛記者撮影)

毎日新聞社大阪本社 写真部記者・西村剛さんによる スーダン・中央アフリカ報告会「家路を探して」

現在、ユニセフでは世界中で水に関する支援を行っているが、この報告会で、スーダンの生活においてそれがどのくらい重要な意味を持つのかということがよくわかるエピソードがいくつかあった。

例えば、子どもの水くみの問題だ。ある子どもは片道3時間かけて水くみにいくので、一日の大半を使ってしまう、学校に行くことができない。他にも、汚れた水を飲むことで人々がコレラにかかっている。水は人が生きる上でなくてはならないものであり、それが安全であるということは最も重要なことであるのだと感じた。

また、印象的だったのは、スーダンの南部出身の元少年兵の男の子の話だ。彼は、両親を北の兵隊に目の前で殺されるという経験をした。そのために、「北の兵隊への復讐」以外にも考えることができなくなってしまったそうだ。このように紛争は、未来を担う子どもたちの心に深い傷を残し、次の世代への憎しみの連鎖を引き起こしている。こういった子どもたちへの心のケアも大切な支援のひとつであると思う。

スーダンからたくさんの避難民が来る中央アフリカも、様々な問題を抱えている。心に残ったのは、小学校が森のなかにあることだ。町中にあると、子どもが武装勢力による身代金目的の誘拐の標的となってしまうからだそうだ。平和で安全である

べき学びの場がこのように暴力によって侵害されているというのはあってはならないことだと思った。



避難地のウガンダから故郷に戻り、帰還者のための施設から鉄条網越しに祖国を見つめる少年(スーダン南部ジュバのウエーステーションで、西村剛記者撮影)

他にも、病院が近くにないために死産してしまった女性の話もできた。女性やその家族にとって安全な出産が確保されていない社会はとても悲

惨なことだ。衛生面、安全面での支援によりこのような状況を改善していく必要がある。(UNIES 鯉野 野麦)

目の前で両親を殺された少年兵。今回お話を聞きながら、世界には私たちが想像できない暮らしをしている子どもたちがいることであらためて驚かされました。

日本では水道水も天然水も、お金をせすすぐに手に入る。スーダンでは片道3時間以上もかかる道のりを歩いて水をくみに行くこと。苦勞して手に入れた水で病気になることもあると聞き、残念でなりません。

今まで難民キャンプなど、子どもたちの笑顔が印象的でしたが、今回のスーダンの子どもたちの瞳は暗かった。「ユニセフがないとおそらく何もなし」という言葉にドキリとしました。

スーダンや中央アフリカで懸命に生きている人たちがいることを忘れてはいけないと思いました。そしてそれは日本とも関係のあることだと思えます。

アフリカの現状はどこもどうしてこんなに不安定で混乱しているのでしょうか。優秀な指導者が出ないのはなぜでしょうか。ニュースを見聞きするたびに歯がゆくなります。知らないこと、わからないことがたくさんあります。私たちはまず「知る」ということが大切だと実感しました。



(財)日本ユニセフ協会・海外インターン活動報告 UNICEFインド事務所での 「HIV/エイズの予防啓発活動」

報告をしてくださった位田和美さんはユニセフ海外インターンとしての活動を終えられ、インドニューデリー事務所から帰国されたばかり、リアルタイムのインドの様子を伺うことが出来ました。

近來めざましい経済発展を遂げるインド、しかしその一方で、人口約11億の30%を占める子どもたちの生活は、驚くほど厳しい環境にあることを位田さんのお話から知ることが出来ました。出生登録がされるのは3人に1人、初等教育を受けることができるのは4人に1人、そしてなによりも毎年約207万人の子どもたちが命を落としているという数字が、その状況をものがたっていました。



9万4000人の子どもがHIV/エイズに感染、母子感染が年間2万4000件に達している中で、ユニセフは、母子感染予防、小児エイズ治療、青少年の



位田和美さん
(現ユニセフ・チャド事務所)

一時感染予防、エイズ孤児の保護・ケア・サポートの4つの分野に焦点をあてて活動していますが、位田さんは、その予防啓発教材として活用出来るデータベースの作成に主に力を入れてこられたとの事でした。

報告会後のティータイムで、今度はJPOからの派遣でユニセフ・チャド事務所での活動に備え翌日には日本を飛ぶとお聞きし、そのパワーに感服するとともに、特に県支部の学生メンバーにとっては大いに刺激を受けた貴重なひとときでした。

大阪大学・外国語学部の学生を中心としたサークル トゥマイニ ニュンバーニ TUMAINI NYUMBANI 活動報告

TUMAINI NYUMBANI (スワヒリ語で「希望を我が家に」)は、ケニアのHIVに感染したシングルマザーの自立支援を行っているサークルです。この日は、青木梨花さんたち3人の大阪大学の学生に、活動の紹

介や実際にケニアでのワークキャンプに参加した様子などをお話しいただきました。子どもをかかえながら力強く生き抜くママたちに実際に会えた事で、支援の必要性や意義を、より強く実感できたとの事でした。



ボランティアのスキルアップを目的とした今年の「ユニ・ボラ塾」のテーマは「環境」。第2回は9月27日、おなじみの末吉洋文先生が「国際環境法の発展」についてお話してくださいました。「フォトランゲージ」といって、私たちにもグループ毎に環境に関連した写真が配られ、何についての写真を話し合いました。



末吉洋文先生
(帝塚山大学 法政策学部准教授)

ユニ・ボラ塾 2008年度は「環境」をテーマに開催しました

また冷房やテレビの使用を1日1時間減らすより、長時間使わない時は電気ポットの電源を切る方がずっと省エネになる事など、クイズ形式で楽しみながら学習を深めました。今回初めて、各自印象に残った環境についての新聞記事を切り抜き次回



発表するという「宿題」も出て、毎日環境について意識するようになりました。

第3回は10月11日、「WTOからフードマイレージまで」というテーマで、今年大きく話題になった食の安全をふまえて、世界の「食」環境

について学習しました。日本の食料自給率は39%。食料を輸入する

だけで多くの水や燃料を消費していることになるのです。

宿題の発表は徐々に学生に戻ったような心地よい緊張感で臨みました。「ユニ・ボラ塾」は一般の方にも広く開放されていますので、次回は皆さまぜひ一緒に勉強しましょう。

イケア、ユニセフ、セーブ・ザ・チルドレン合同で
ソフトイ キャンペーン
「1ユーロが子ども達の未来を変えます」

このキャンペーンは、2008年11月1日から12月24日の期間、世界各国のイケアストアで実施されたものです。神戸でも4月にオープンしたポートアイランド店で取り組まれました。キャンペーン中にお買い求めいただいたソフトイ(ぬいぐるみ)1個ごとに商品の価格に関わらず、1ユーロが寄付されるというもの。今回は、児童教育の質向上を目的としてアジア、アフリカ、ヨーロッパ14カ国・16のプロジェクト



に寄付されることになっています。兵庫県支部でも、期間中11月22日から26日の5日間、イケアさんご厚意により、来店の子どもたちを対象としたミニ学

習「おみずがだいじ」とユニセフのクリスマスカードの頒布会をさせていただきました。学習は学生グループ・ユニセフが先生となり、ユニセフマークの間違い探しや紙芝居「井戸ができた」を実施。子どもたちはとても熱心!

カード頒布に初めて参加のボランティアさんからは「先輩ボランティアさんになって『カード代金の半分がユニセフ募金になります』と呼びかけながら改めて納得。子どもたちと一緒に前授業も楽しみながら、初めてユニセフマークを自覚。なんとも頼りないことですが、知る・伝える・仲間・歩み・日本・世界・そして子どもたちへ とつながっていく活動の広がりを感じたボランティア初日でした。続けていこう、私にできることを、そう思っています」と、感想が寄せられました。



UPPフェスタ2008
に参加しました

『UPP』とは、「子どもたちの子どもたちによる子どもたちのための公園づくり」プロジェクトのこと。今回、11月29日(土)、国営明石海峡公園神戸地区のユニセフパークでのイベントに、スタッフとしてユニセフのメンバーが参加しました。ファシリテーターグループのOBや兵庫県立大学の学生、参加した子どもたち約30名を対象に「水の大切さ」を学ぶ紙芝居『井戸ができた』を実施しました。「普段は身近に使っている水だけれど、外国には使えない子もいるので大切にしないといけないと思った」「少ししかユニセフについて知らなかったけれど、話をきいてよかった」等と感じたり、セメントにビー玉を埋め込みながら、公園の園路作りをしたこともいい思い出となったようです。楽しいイベントの中でも「いのち」について考えるフェスタ、次年度以降も協力していきたいと思っています。



学園祭での展示活動を
振り返って

11月1日～2日、神戸市外国語大学で地雷・パネル展示とカード頒布を行いました。青空の下、学園祭は大変なにぎわいでした。私たちの展示は少し大きめの教室で「Peace Project」という外大のサークルと一緒にしました。「平和」をテーマに部屋を作り、日本ユニセフ協会のブースの他に、世界の報道写真展、ビデオ上映、広島長崎での原爆のレポート、平和を願うハンドアートが設置され、まるで小さな平和博物館のようでした。Peace Projectのメンバーからとてもいい刺激を受け、彼らと交流できたことをうれしく思います。活動にあたっては、メンバー同士交代してブースに入り、担当でない時は学園祭を楽しみました。隣の部屋ではチマチョゴリを着て記念撮影をしてとても楽しい思い出になりました。



ました。たくさんの方々のご理解もあって多くの募金が集まり、グッズの売り上げも好調でした。途上国の厳しい環境で育つ子どもたちのために、少しでもユニセフとして貢献出来たことをうれしく思います。学園祭は色々な形でアプローチが出来ます。バザーや屋台を出して売り上げを協会に寄付しても良いと思います。そのようにしてメンバー同士が話し合っ協力していければ、ユニセフがもっと魅力的なグループになると思います。今回が初めての試みでしたので、不安に思うこともありましたが、学生だけでなく地域の方々にも見ていただき、多くの方がパネルやグッズ、地雷に関心を示してくれたことが大変うれしかったです。また、多くのスタッフのみなさんにお手伝いいただきました。ありがとうございました。

学園祭での展示活動は、他に聖トマス大、姫路看護学校、京都大を会場として行いました。



神戸市東灘区呉田地区こども会 (9/29、11/10) 神戸市社会福祉協議会、神戸市労働組合連合会 (10/6) 神戸製鋼ラグビー部、ワールドラグビー部合同で (11/7) 甲南本通商店街振興組合(本山南中学2年生・トライやる、12/9) 西宮市立若菜園中学校生徒会 (10/31) 茨木市立南中学校・人権サークル (12/16) 宝塚市立西谷小学校・学内バザー (12/17) 神戸市立太山寺中学校・文化祭、街頭募金 (12/18) 兵庫県立いなみ野学園学生自治会 (12/19) 兵庫県立武庫荘総合高等学校生徒会 (12/24)

各地のイベントに参加/展示会を開催



ユニセフカップマラソン(阪神武庫川河川敷他、11/2) 兵庫県ふれあいの祭典(あわじ市しづかホール、11/9) クリスタルフェスティバル(神戸デュード・ム11/8) ユニセフ写真パネル展(加古川市民ギャラリー、12/22～25) ストップ温暖化フェア(コープ2地区、11/8～9) コープボランティア交流会(コープ3地区、11/22) 他

第30回ユニセフ
ハンド・イン・ハンドを開催 【12月23日】

10会場、ボランティア総勢141人の呼びかけで、392,281円の募金。毎年、継続参加の「ボーイスカウト神戸第17団」「ガールスカウト宝塚第46団」、伊藤ハム職員ご家族に加え、はじめて参加いただいた元気な高校生、「呉田地区子ども会」のみなさん、寒い中、大きな声で一生懸命呼びかけてくださいました。ありがとうございました。



小さなお子さんが募金してくれたり、中高生の若い子たちから「おばちゃん、がんばってな」と励まされるとうれしくなります。遠くは但馬から参加される方もあり、姫路でも回を重ねるごとにメンバーが増えています。(40代女性)

おもちゃ屋さんの近くで呼びかけた事もあって、お父さんやお母さんと一緒に小さな子どもたちがたくさん足を止めてくれました。貴重な募金とともに、いつか1の笑顔もいただきました。



ユニセフハンドインハンドの取り組みの輪が着実に広がっていることをうれしく思います。「ユニセフ」というだけで幅広い世代の方が気持ち良く募金に協力してくれる、そのみなさんの温かい心に感謝と元気をもらっています。(60代男性)

テーマ「守りたい。子どもたちの命、アフリカの未来」



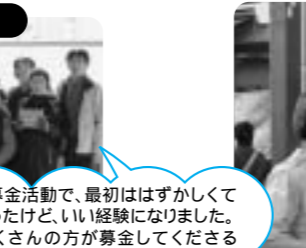
宝塚会場



西宮会場



住吉会場



三宮会場



三宮会場



垂水会場



垂水会場



垂水会場



垂水会場



垂水会場

ボランティア募集

世界の幼い子どもたちの命を守る活動や基礎教育を広める活動を、あなたも応援してみませんか? 兵庫県支部では、ユニセフの紹介・啓蒙活動や募金活動などを、交流を楽しみながら進めています。他にチームに分かれての活動もあります。興味のある方はぜひ事務局までお問い合わせください。

- 学習チーム** ユニセフについての出前学習会の講師活動
- カードチーム** カードなどのユニセフ製品の頒布活動や管理
- 事務チーム** 支部事務局をサポートする事務所内での活動
- 広報チーム** 「Wish」の作成やその他広報ツールの作成

UNIES 学生など若者が中心の活動

学習会 イベント参加 カード頒布
事務局運営 広報

世界のともだちと心をつなごう

(第7回 ユニセフのつどい)

とき 2009年3月7日(土) 10:30~15:30

ところ コープこうべ生活文化センター 2階ホール
JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分
(会場へは下記の案内図をご覧ください)

入場無料・要予約

報告「レト・エリトリアの現地活動から」 ～ユニセフの役割～

講師 菊川 穰さん (財)日本ユニセフ協会



UNICEFとUNFPA(国連人口基金)とのジョイントプログラムのフィールドにて



講演「アフリカ、中東、アジアを走る」 ～自転車の旅で出会った人々～

講師 山崎美緒さん (日本アフリカユースネットワーク代表)

ユニセフ活動紹介・募金贈呈式

昼食交流・展示 (神戸市立科学技術高校、IKEA、伊藤ハム(株)、コープこうべ)

西アフリカダンス あなたもダンスで仲間入り

事前ワークショップに参加しませんか

2月21日(土)・28日(土) 10:30~12:00

セネガルダンサー

講師: パブロ・アムドゥ・ギゼさん 定員: 15人 参加無料(要予約)

主催: (財)日本ユニセフ協会兵庫県支部
協賛: 神戸YMCA、神戸YWCA
後援: 神戸市、(財)兵庫県国際交流協会
コープこうべ

同時開催 3月3日(火)~12日(木)

パネル展「ユニセフと水」

【コープこうべ生活文化センター 1階ロビー】

ガザ人道支援緊急募金 2月14日(土)13:30~ 元町 **大丸神戸店前**

神戸ラブランチャリティ・ウォーク 2月8日(日)11:30~15:00

神戸ハーバーランド発10キロコース 神戸空港発4キロコース(ポートアイランド・市民広場ゴール)

フリージャーナリスト

大津司郎さん講演会「アフリカ紛争を語る」 4月25日(土)



募金や会員など、 あなたができる方法で ご協力ください

ユニセフ募金 ~ご家庭で学校で職場で~

いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どものための支援活動に使われます。郵便振替でお願いします
口座番号: 00190-5-31000
加入者名: (財)日本ユニセフ協会
通信欄に「K1-280兵庫」とご記入ください。

会員って

ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。

一般会員...個人ならどなたでも

1口 5,000円

学生会員...18歳以上の学生

1口 2,000円

団体会員...団体、法人、企業

1口 100,000円

申込み方法についてはお問い合わせください。

緊急募金のお願い

ガザ人道支援緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「ガザ K1-280兵庫」と記入



© UNICEF/NYHQ2009-0044/EI Baba

容器に水を入れるパレスチナ人と順番を待つ少女(ラファ)

中国大地震緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「中国大地震 K1-280兵庫」と記入

ミャンマー・サイクロン緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「ミャンマー・サイクロン K1-280兵庫」と記入

スーダン緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「スーダン緊急募金 K1-280兵庫」と記入

アフリカ緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「アフリカ緊急募金 K1-280兵庫」と記入

自然災害緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「自然災害 K1-280兵庫」と記入

人道危機緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「人道危機緊急募金 K1-280兵庫」と記入

【共通】

送金手数料は免除されます。

口座名義: 財団法人日本ユニセフ協会

募金はゆうちょ銀行指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。

ユニセフへの募金は寄付金控除の対象となります。

また、

●最新の情報はホームページで <http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

日本ユニセフ協会兵庫県支部

検索

案内図 JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分



ユニセフ兵庫県支部
(コープこうべ生活文化センター4F)

Wish Vol.26号(2009年新年号)

ユニセフ兵庫ニュース

2009年(平成21年)2月1日発行(季刊)

発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部

〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18

コープこうべ生活文化センター4F

TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830

(平日の10時~16時)

冬本番の寒さでみぞれが降り「降るなら小判がいいね」と子どもと笑い合う何気ない日常、ガザの子どもの頭上には砲弾が降ったというニュース。遠い国々の厳しい現実を言葉で伝える難しさを感じながら、平和を守る大切さだけは子どもたちに伝えたいと強く願います。2009年が始まり、もうすぐ立春。広報紙・ムンバ・も増え、新年度からリフレッシュしてお届けします。(K)